学校だより

第３７７号

発行：令和３年１０月１日

石川県立医王特別支援学校

http:// cms1.ishikawa-c.ed.jp/iouxxs/

東京２０２０パラリンピック　～多様性を尊重し合う「共生社会」を目指して～

校長　川口　美江子

東京２０２０パラリンピックは、新型コロナウイルスの影響で１年延期となり、緊急事態宣言下で原則無観客の開催でしたが、世界中から集ったパラリンピアンが個性や能力を発揮し、まさしく“人間の可能性の祭典”に相応しい大会となりました。ボッチャで銀メダルを獲得した田中恵子選手とアシスタントを務めた母親の孝子さん、本当におめでとうございます。障がいの有無に関係なく人々の心を大きく揺さぶり、障がいのある子どもたちに言葉以上のメッセージを残してくれたことに感謝したいと思います。

パラリンピックのテーマである「多様性」。注目されていたのが「車いすラグビー」です。特徴は、障がいの程度や性別を超えてさまざまな選手が同じチームでプレーできることです。チームは男女を問わずに構成し、各選手は障がいの程度に応じてポイントが与えられ、出場する４人の合計ポイントが決められています。車いす同士の激しい接触が許され、別名「マーダーボール（殺人球技）」と呼ばれる激しい競技。障がいの比較的軽い選手は機敏に動き回りスピードを生かして得点を狙う、障がいの比較的重い選手はディフェンス役として相手の動きを止めたり、味方の動くスペースを作ったりしてサポートするといった、それぞれの特性に応じた役割が与えられています。日本チームでは、初めて女子選手として日本代表入りした障がいの重い倉橋香衣選手が、巧みに車いすを操り相手をブロックし、障がいが軽い選手が得点源のトライを支えていました。障がいの種類や程度、性別など、様々な枠組みを取り除いても能力や個性などの特性を生かせることを体現している姿を目にして、多様性を尊重し合う未来への展望が拡がりました。

また、この大会で印象的だったのは、報道やテレビ解説などに障がいのある方が活躍していたことです。感極まる場面では涙で言葉に詰まる場面が何度もありましたが、それにより感動や思いの深さが強く伝わってきました。選手がこれまで重ねてきた努力や乗り越えてきた苦難、周囲のサポートなど、言葉では表現しきれない思いに寄り添うことができました。

大会のシンボルマーク
「スリーアギトス」
「アギト」とは、ラテン語で
「私は動く」という意味

閉会式で国際パラリンピック委員会のパーソンズ氏は、「インクルーシブ（分け隔てのない）未来への幕開けだ」と語りました。困難なことがあってもあきらめずに、限界に挑戦し続けたパラリンピアンのように、多様性を尊重し合う「共生社会」を目指して私たちは動き続けていきましょう。東京２０２０パラリンピックを新たな出発点にしていくのは私たち一人ひとりです。

「学校公開」の一般公開の中止に関するお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、１１月１日(月）～１１月５日(金）のいしかわ教育ウイークに予定しておりました「学校公開」は保護者限定で公開させていただくこととなりました。現状を鑑み、ご理解、ご協力をお願いいたします。

こちらの QR コードから
リニューアルした本校の
HP がご覧になれます。

１０月の予定

６日(水）校外学習代替活動
（AM７病棟　PM８病棟）
９日(土)～１４日(木)障害者ふれあいフェスティバル
作品展示：石川県行政庁舎　１９階展望ロビー
２０日(水）文化祭(一般公開中止)

※今後、急な変更があるかもしれません。ご了承ください。

文化祭で公開！
劇『医王の刃』
完成に向けて全集中中!!

＊ みなさんのご意見をお聞かせください。　　学校（０７６）２５７－０５７２　　担当：細川